

平成23年度八重山群島病害虫発生予報第1号(4月予報)

4月の気象予報

向こう1か月の平均気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)

	平均気温	降水量	日照時間
高い(多い)	20	20	40
平年並	30	30	40
低い(少ない)	50	50	20

(平成23年3月18日付沖縄気象台発表・沖縄地方1か月予報)

平年値

	平均気温()	最高気温()	最低気温()	降水量(mm)	日照時間(h)
八重山群島(石垣島)	23.2	25.8	21.0	153.9	137.2

(沖縄気象台発表・統計期間1971～2000・資料年数30年)

4月の発生予報および防除上の注意事項

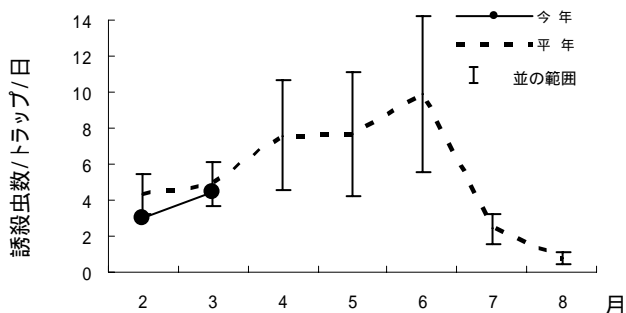
(1) メイチュウ類

発生程度 : やや少

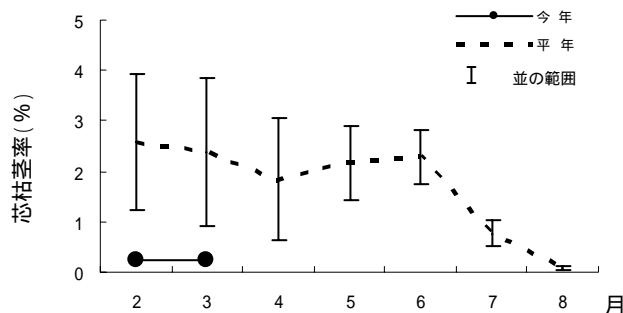
予報の根拠

a 3月のカンシャシンクイハマキ合成性フェロモントラップによる、トラップ当たり日当たり誘殺虫数は4.4頭(前年5.9頭、平年4.8頭)と平年並であった。

b 3月下旬の調査の結果、新植圃場における芯枯茎率は0.2%(前年0.1%未満、平年2.4%)と平年よりやや低かった。



カンシャシンクイハマキの誘殺虫数の推移



春植における芯枯茎率の推移

< 防除上注意すべき事項 >

- a ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- b 植付時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- c 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、生育初期の防除を徹底する。

カンシャコバネナガカメムシ(ガイダー)の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、茎当たり虫数は3.9頭(前年78.4頭、平年33.8頭)と平年よりやや少なかった。
- b 2～3月の気温に基づく、3月22日時点での防除適期は、2月以降の気温が低かったことから、平年より石垣島及び周辺離島で4日、与那国島で6日程度遅いと予想される。
- c この時期に茎当たり虫数が15頭を超える地域は一斉防除をすることが望ましい。
- d 薬剤防除の際は周辺住宅地や隣接圃場に薬剤が飛散しないよう風向きに注意する。

防除適期予想日(3月22日現在)

地域別	防 除 適 期	2.5齡期予想日		
		本年	平年	平年差
石垣島及び周辺離島	4月3日～4月17日	4月10日	4月6日	4日遅い
与那国島	4月7日～4月21日	4月14日	4月8日	6日遅い

平年値は、過去10年間の日平均気温の平均値より算出。

2 マンゴー

炭疽病の防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、一部園地で発生がみられた。
- b 本病の病原菌は花芽、花序、葉などにすでに潜在感染していることが知られており、収穫果実への被害軽減のため、袋がけ前までの防除対策が重要である。
- c 罹病した新梢、残渣は速やかに施設外に持ち出し処分する。
- d 開花期には予防効果のある薬剤、結実期以降は治療効果のある薬剤を選定し、定期防除に努める。

チャノキイロアザミウマの防除対策

- a 3月中旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(前年0頭、平年0.6頭)であった。
- b 開花期以降は本種が増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。
- c 混合花の新葉や不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に摘除する。
- d 発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- e 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニ類の防除対策

- a 3月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0頭(平年0.4頭)であった。
- b 今後気温の上昇に伴い増加する可能性があるため、早期発見・早期防除に努める。

3 オクラ

生育初期のアブラムシ類の防除対策

- a 例年、トンネル被覆除去後にアブラムシ類の寄生がみられることから、シルバーテープ等を利用して飛来を防止する。
- b 圃場周辺の雑草はアブラムシ類の発生源となるので除草する。
- c 多発すると葉は萎縮し、初期生育に影響を及ぼすので、早期発見・早期防除に努める。